

なら

2020.3 vol.13

産業 ジャーナル

Industry Journal
of Nara

社 高木包装

パッケージングの
進化する価値を提案する
梱包資材メーカー

株式会社高木包装

代表取締役社長 高木美香氏

公益財団法人 奈良県地域産業振興センター



INDEX

2 寄稿
魅力ある奈良、魅力ある商工会議所を目指して
奈良商工会議所会頭 小山 新造 氏

4 巻頭特集
パッケージングの進化する価値を提案する 梱包資材メーカー
株式会社高木包装 代表取締役社長 高木 美香 氏

8 この企業に、技あり!
ものづくりは、ひとづくり、夢づくり WIN・WINの提案型営業
株式会社M. T. C 代表取締役 森 久次 氏

10 会社訪問記(第二創業)
「栢森」の魅力を発信する食事処がオーベルジュとして歩みはじめる
奥明日香さらら 代表 坂本 博子 氏

12 INFORMATION
後継者の自己成長・経営革新のために
あなたの事業承継を応援します
地域の中小企業を支える新たな取り組みを開始
「中小企業応援士」の委嘱について
奈良県産業振興総合センター
「奈良いろどりマルシェ」を毎月開催
困ったときの…
「下請かけこみ寺」事業について
設備投資の公的サポート
設備貸与制度

訪問余録



店内を飾る手芸作品にも注目を

滋味深い料理で人気の「奥明日香さらら」代表の坂本博子さんの趣味は、手芸。店内のあちらこちらに、坂本代表の作品が飾られています。取材した日の床の間に飾られていたのは、大きな朱雀のパッチワーク。キトラ古墳で発見された壁画の特徴をとらえながらも、独特の風合いがあって、古い農家を改装した店の雰囲気ともよく合っています。織物や裁縫も得意で、独特な色使いが印象的な「さをり織りのストール」など、一部の作品は、店で販売もしています。



昭和40年3月甲南大学経営学部を卒業し、同年、株式会社南都銀行に入行。同行の常務取締役を経て、平成15年には小山株式会社代表取締役社長、平成30年からは同社の代表取締役会長に就任。令和元年11月には奈良商工会議所会頭及び奈良県商工会議所連合会会長に就任。

奈良商工会議所会頭 小山 新造 氏

私は、昨年11月の臨時議員総会において会頭に就任させていただき、早や5か月が過ぎようとしています。

現在、世界情勢は目まぐるしく変化し国内においては、人口減少や高齢化等によって日本の社会構造が年々深刻化し、人手不足は日本経済成長の足かせとなっています。

奈良商工会議所は、昭和21年の設立以来、地域の発展、商工業の振興に取り組み、特に近年では小規模支援法が改正される度に従来の経営改善普及事業から更に踏み込んだ伴走型支援が求められるようになってきました。

この様な状況の中、奈良市においては世界遺産や魅力的な観光資源、或いは鹿との共生の街としてインバウンドの増加が続いており、これ等に付随する観光産業は地元経済活性化の牽引役となっています。

昨年は30年ぶりの御代替わりを経て「令和」の時代が幕を開けたのははじめ、ラグビーワールドカップ、消費税率の引き上げ等重要な出来事があった他、全国各地が自然災害に見舞われた年でもありました。

今年は「東京オリンピック・パラリンピック」の開催が間近に迫り、地方へ観光の波が波及してくれることに期待を寄せているところです。また、奈良県において進めてこられた大宮通りプロジェクトは、4月に国内初となる国際級ホテル「JWマリオットホテル奈良」が開業するのをはじめ、奈良県コンベンションセンターやバスターミナル等の「まちびらき」が予定

されており、経済界としても、多くの人々が集まることができる「朱雀門ひろば」も含めた誘致、活用を積極的に進めてまいりたいと考えております。

そして、将来的な奈良への誘客を増やしていくためには、来訪者への交通アクセスの改善は最も重要な課題であると捉え、引き続きリニア中央新幹線並びに京奈和自動車道の早期整備に向けた活動にも全力で取り組んでまいりたいと考えております。

一方、当商工会議所が国から委託を受け取り組んでおります「事業引継ぎ支援センター」では、県内企業の事業や技術を次代へ承継していくため、後継者が不在となっている事業所の相談・支援にあたっています。

この事業も、数年前までは相談案件自体が少なく専門相談員も苦勞したようですが、最近では、政府の支援策や事務局の体制を強化した結果、相談件数も増え成約に結びつくようになってまいりました。

そして、これ等案件の最も多い紹介先が貴財団に設置されている「奈良県事業承継ネットワーク事務局」であるとお聞きしております。心から感謝申し上げます。

引き続き両組織が連携することで県内企業の支援に結びつけてまいりたいと考えております。

結びに、今後とも奈良商工会議所の活動に対しまして一層のご支援ご協力賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

魅力ある奈良、魅力ある商工会議所を目指して

パッケージングの

進化する価値を提案する

梱包資材メーカー

株式会社高木包装
代表取締役社長
高木美香氏

高木包装は、1955年の創業以来、金剛山・葛城山を望む葛城市で、段ボールケースなどの製造販売に取り組みメーカーです。2017年には高木美香社長が、業界では数少ない女性社長に就任。近年はパッケージデザインにも注力し、日本包装技術協会主催の「日本パッケージングコンテスト」部門賞に4年連続入賞するなど、「包む」を軸にした新たな取り組みにも、大きな注目が集まっています。

包むを軸に、愛と夢を持って価値を創造する

前野 創業65周年を迎えられるということですが、まずは創業の経緯とこれまでの歩み、現在の業務内容について教えてください。

高木社長 当社は1955年に、父・高木正年が創業した会社です。それ以前から祖父が製縄業を営んでおり、そのときにお付き合いが始まった飲料メーカー様とは現在も取引させていただいています。

当時、商品を運ぶ入れ物が木箱から段ボールに代わるという流れがあり、段ボールケースの製造販売の会社を創業した訳です。現在では最大1650mm×3500mmから最少は220mm×690mmまで、多様なニーズに対応する生産設備を備えています。

また、2011年の東日本大震災では段ボールが避難場所でのパーティションや簡易ベットとして利用されるなど、近年は段ボールに、物を運ぶ以外の新たな用途も出てきてあります。当社でも段ボール製簡易トイレ

の「カワルノ」を開発するなど、段ボールの新たな価値にも注目しながら、商品開発を進めています。

前野 最近では段ボールだけでなく、パッケージデザインの分野でも大きな評価を得ておられますね。

高木社長 当社には「本業から外れることはしない」という教えがあるのですが、それでも「包む」ということにはこだわりながら、時代に合うように変化していきたいと思っています。私はそれを、「包むを軸に、新しい価値を、愛と夢を持って創造する」と言っています。

前野 その新しい取り組みが、日本包装技術協会主催の日本パッケージングコンテストで2016年から4年連続入賞という快挙につながったわけですね。

高木社長 賞をいただいたのは、奈良県のブランドイチゴを栽培する「奈良いちごラボ」様のパッケージデザインです。栽培したイチゴの中から選りすぐりをプレミアムイチゴとしてブランド化しておられ、例えば2017年は、大粒イチゴ一粒をパッケージする「古都華・淡雪・パールホワイトプレミアムパッケージ」をデザインさせていただきました。高額なイチゴに負けない存在感のあるデザインと、開閉時に「カチツ」と音が鳴る宝石箱のようなボックス。パッケージの力で、商品やブランドの価値をより高めようという意図です。

前野 先ほど見せていただきましたが、毎年いろいろなものを作っておられて、包装とい

うカテゴリを超えた価値を創造しておられると感じました。社長が今のように、包装に新たな価値を求めるようになったのは、何かきっかけがあったのでしょうか。

高木社長 数年前に、日本包装技術協会の業界紙の編集委員をさせていただいたことが大きいと思います。事務局をしておられた女性とのつながりをきっかけに、委員に選んでいただいたのですが、全国の一流メーカーさんの包装に関するお考えを聞く機会をいただいていた、とても勉強になりました。また、私は結婚前の3年という短い間でしたが、ザ・バック(株)という先進的なパッケージメーカーで働かせていただいております、その経験も大きかったと思います。



日本パッケージングコンテストで受賞した「奈良いちごラボ」様のパッケージ商品価値を高める高級感のあるデザインです



簡易トイレ「カワルノ」はカンタンに組み立てられ、防災備蓄以外にも、介護用品として、またアウトドアや断水時の緊急事態にも役立ちます

聞き手



奈良県産業振興総合センター
所長 **前野 孝久氏**



社長を支える笑顔の絶えない女性従業員

り前でしたが、どこか淋しいこともありましたが。やはり、社員には家族を大事にして、その上で家族に支えられながら、やりがいをもって仕事をしてほしい。それは、強く思っています。

事業承継と今後について
社員全員が仕事を楽しむことが大切！

前野 御社は名誉会長であるお父さま、会長であるお兄さまと事業を継承され、高木社長は3代目に当たられます。(公財)奈良県地域



工場には大小様々な機械が稼働しており、お客さまが求める多様なニーズに合わせた段ボールが生み出されています

社員が好きと思える職場に 家族も認める会社の取り組み

前野 今ほどの業界も、人手不足が深刻化しています。新たな人材の登用、従業員とのコミュニケーションなど、人材確保の工夫についてはいかがでしょうか。

高木社長 人材確保という課題は、確かにあります。当社は毎年新卒者の採用を続けておりまして、新しく入った社員を育てることで、また新たな人材を呼ぶことができるという、ある種の流れはできているのかなと思います。近くには工業高校もあって、立地に恵まれた部分もあります。

またコミュニケーションに関しては、当社では毎週月曜日の朝礼で、「ほめ達」を取り入れています。2人1組になって、互いの良いところをほめあって、新しい週を気持ちよく始めようというものです。これは、私が社長になってから取り入れたことで、社内のコミュニケーションが目に見えて変わった部分だと思います。

採用試験で私は面接する全員に、「当社を見て、何かワクワクすることがありましたか」と質問しています。今の時代、好きな職場でないと、長く続かないと思うんです。もちろん仕事ですから、大変なこともあります。その中でも、ひとりひとりがやりがいを感じられる会社でありたいと思っています。

前野 一昨年の夏には「高木包装THANKS

産業振興センター(奈良県事業承継ネットワーク事務局)の支援を受け、「経営の見える化計画」や「事業承継計画」の策定のほか、補助金の活用等に取り組みされており、いずれは受け取ったバトンを次世代に渡す日も来るかと思っています。

高木社長 次の世代にバトンをつなぐのは、私の使命だと思っています。それには、私も含め、「社員全員が仕事を楽しむことが大切だ」と考えています。

父の時代は、時には家庭より仕事を優先させて、歯を食いしばって仕事に打ち込むことが求められた時代でした。でも今は、そういう時代ではありません。必死に働くことばかりを求めているのは、社員はついてきてくれません。私自身も含め、全員がゆとりをもって、人間らしい生活を送りながら、しっかりと事業を継続させる。まだまだ出来ていませんが、そこを目指してこそ、次の世代にバトンを渡すことができるのだと思うのです。

前野 世の中全体で徐々に働き方が変わってきて、今はその過渡期だということですね。次の世代に事業を継承するには、社長自身が「あんな風になりたい」と思われるような存在でなければいけないですね。

高木社長 もっと言えば、高木包装が「あそこで働きたい」と思ってもらえる会社であることです。社員ひとりひとりがやりがいを感じて、家族の協力も得られて、かつ、ワクワクできる職場であることです。それが、これ



様々なアイデアを取り入れ、社員が笑顔で動められる環境づくりに取り組んでいる高木社長

祭り」を開催されたそうですね。

高木社長 「高木包装THANKS祭り」は社員の家族や地域の方、取引先の方を招いて行った感謝の気持ちを表現するイベントです。工場見学のほか、金魚すくいや段ボールトラックづくりなどのお楽しみコーナー、唐揚げやかき氷などの社員の手作り屋台、またバトミントンチームを招いたアトラクションもあり、当初100人くらいの来場を想定していましたが、猛暑の中700人以上もお越しいただきました。新しい試みでしたが、何より社員の家族が来てくれて、普段お父さん、お母さんがどんなところで働いているかを知ってもらえたのが良かったと思っています。

前野 家族が仕事を理解して応援してくれれば、社員の皆さんのモチベーションになりますね。

高木社長 うちの父が仕事第一の人だったので、私自身、小さいころから働いている父の姿ばかりを見ていました。当時はそれは当た

から私たちが目指すべき会社のありようなのだと思います。

前野 県内には、これから社長に就任しようとする女性もたくさんおられます。先輩の女性社長として、アドバイスをお願いします。

高木社長 正直、女性が社長としてやっていくことに反発を持つ人は、まだまだ多いと思います。ただ同時に、女性経営者であることで、得をする部分もあります。私が日本包装技術協会の業界紙の編集委員をさせていたことも、女性同士のつながりがきっかけでした。そう考えると、結局、一生懸命やることではないでしょうか。そうすれば、必ず助けてくれる人が出てきます。

前野 御社の「包む」を軸にした新たな取り組みも、これからますます注目を集めることだと思います。

本日はお忙しい中、どうもありがとうございます。

株式会社高木包装



段ボールケースを中心に、化粧箱などの多様な包装資材を製造・販売。最新の設備で、あらゆるニーズに対応しています

代表取締役社長/高木 美香

本社/葛城市董(はじかみ)74-2

TEL/0745-65-1133

設立/昭和30年(1955年)

資本金/1,200万円

従業員数/90名(パート含む)

URL/http://www.takagi-hoso.co.jp



やりがいを感じられる現場では丁寧な仕事で「包む」が創造されています

ものづくりは、ひとづくり、夢づくり WIN・WINの提案型営業

株式会社M・T・C

代表取締役 森久次氏

株式会社M.T.Cは大和高田市で50年以上の歴史を持つ、金属加工会社です。社長の森久次さんは2018年に奈良県表彰卓越技能者にも選ばれた人物。柔軟な発想と確かな技術力で、金属プレス・板金加工業界に新たな風を吹き込みます。

独自の加工技術を駆使したWIN・WINの提案

ランダムピッチ送り加工法、ステージ交換式順送金型による加工法、特殊な技法を使ったカシメ加工法。これらは森久次社長が中心となって考案した、株式会社M.T.C独自の金属加工法です。「例えばプレス加工は、プレスの回数が費用に直結します。通常10回のプレスが必要な部品が、仮に5回のプレスで出来れば、利益は倍になるんです」と森社長。従来の工法にとらわれない柔軟な発想で製造工程を改善し、取引先と当社がともにメリットのある提案をする。それが、株式会社M.T.Cの特徴です。

株式会社M.T.Cはもともと、森社長の父親・暁美さんが1968年に、森製作所の名で創業した会社です。当初はプレス加工でド

アロックの部品を製造する、両親2人だけの小さな会社でしたが、2004年4月に有限会社M.T.Cと改名、2007年に株式会社になりました。

「2003年に父が他界し、私が代表となるにあたり、法人化しました。法人化は、これから会社を大きくするという、意思表示でもありました」と森社長。現在従業員は約40人。受注する商品も、大手住宅設備メーカーのユニットバス、トイレ、キッチン部品、鋼製家具メーカー陳列什器の部品など多岐にわたっています。

補助金を活用した設備投資あきらめないことが重要

株式会社M.T.Cでは3つの工場に順送プレス機8台、単発プレス機10台、プレスベンダー機5台を備え、プレス機の保有台数は県



最新のタレットパンチプレス機を導入し独自の工法を追求しています



右から左に進むにつれて、金属の板が加工され、徐々に部品へと形が整っていきます

内トップクラス。2019年にはタレットパンチプレス機も導入し、プレス加工と板金加工、両方の仕事を受注しています。これらの設備投資のために活用したのが、2012年から始まった国の「ものづくり補助金」。過去7年間で6回と、多くの採択を受けています。

これほど採択を受けた秘訣を尋ねると「一つは、新しい設備を導入することで仕事ができるように変わるかを明確にすること。もう一つは、簡単にあきらめないこと」との答え。一度目の申請で不採択となった場合も、申請書を見直し、再提出することで、同年度で採択を受けたこともあるそうです。「私は、最初の申請こそコンサルタントの協力を求めましたが、それ以降は、(公財)奈良県地域産業振興センターの支援を受けほぼ自分で申請書を作成しています。確かに面倒ですが、書類を作成することで自身の中で目的がより明確化されますし、費用を気にすることなく、何度も申請することができます」。



新たな金属加工法を生み出すなど、製造工程だけでなく、後継者候補の森秀貴専務が持つIT知識を取り入れて、業務の改善を進めている森社長

また、簡単にあきらめないという精神は、日々の業務の中でも重要です。森社長は、仮に加工や納期に無理のある注文でも、それが本当に無理なのか、何か工夫することのできるのではないかと、徹底して考えることを心掛けています。「いろいろな悩んでみると、いい案が出ることもあります。当社の強みの一つに、独自の工法を採用していることがあります。それが、それらも、無理な依頼になんとか対応できないかと悩んでいる過程で、出てきたものでした」。

補助金も日々の業務も自身が知識を持ってこそ

現在の森社長の目標は、社内一

貫生産体制の構築です。すでにプレス加工中心から板金加工にも手を広げることで、試作品の開発から量産まで社内で行えるようになりました。今後は溶接などにも取り組む予定です。

金属加工業界は、職人が多い業界です。現在金型の製作などは外部の職人に依頼していますが、熟練の職人は能力が高い反面、これまでの工法にこだわり、新たな提案への理解が得にくい場合もあります。そのような職人とうまく付き合うには、自身もしっかりとした知識を身に付け、相手に認められること。森社長は、「これも、補助金の申請と同じです。誰かに依頼するから、自分は知らなくてもいいでは通用しません。一定の知識を持ってこそ、話を聞いてもらえるんです」と話します。

近畿経済産業局による「関西ベンチャー企業」、奈良県からの「経営革新計画」や「地域経済牽引事業計画」など、いくつもの認定を受けている株式会社M.T.C。現

在工場は3か所に分散していますが、IoTを活用した連携も進んでいます。「出会う人すべてが先生。出会うことすべてが勉強。新たな発想を取り入れなければ、次の展開はありません」と森社長。業界の常識にとらわれない同社の発展は、これからも続きます。

独自の工法を駆使した提案で信頼を集める金属加工会社。国の「ものづくり補助金」を活用した最新設備を備え、柔軟な発想と確かな技術力で、様々なニーズに対応しています

代表取締役/森久次
本社/大和高田市大谷126-2
TEL/0745-22-1410
設立/2004年
資本金/1,000万円
従業員数/40名
URL/https://mtc-nara.co.jp



奥明日香さらら 代表 坂本 博子 氏



奥明日香の美しさを広く伝えていきたいと活動し続ける坂本さん

観光客でにぎやかな石舞台古墳から、車で約10分。美しい棚田で知られる稲淵のさららに先、背後に高取山を背負う山間に、栢森の集落があります。「奥明日香さらら」は、この集落唯一の食事処。滋味深い料理と店を運営する坂本博子さんの気さくな人柄に、県外からも多くのファンが通います。

地域の魅力の発信が
集落の活性化に

店で使う米や野菜の大半は、夫の俊一さんが栽培しています。収穫したばかりの旬の味覚をふんだんに使えるのは、「奥明日香さらら」の何よりの強みです。「さらら膳」は店のオープン前から村おこしのイベントなどで振舞っていた料理がルーツで、品数の多いのが特徴。ふつくらとした黒米ごはんも、今や店の名物として定着しています。栢森はもともと、集落の人以外を訪れることもほとんどない場所です。坂本さんが取り組んでいる地域活性化の取り組みにも、「無用な波風をたてないでほしい」と

の声が上がることもあったそうです。それでも、「奥明日香さらら」を目指して観光客が来るようになり、SNSなどを通じて栢森の魅力が発信されることで、集落の力が改めてその価値に気づく機会となつていきます。「最初の3年は、日々の仕事をこなすだけで精一杯。それが5年ほどたち、自分のしてきたことをちょっと俯瞰で見られるようになった時、この取り組みは間違つてはいなかったのかなと感じるようになっていました」当初はあまり良く思っていなかった人たちの反応も、長く続けていることで、徐々に認識が変わってきていると感じています。



同じ敷地内には様々な作業を体験するための農家体験スペースもあり、山菜採り、季節の野菜の植え付けや収穫、そして採れた野菜を使って「さらら膳」のような昔ながらの田舎料理を作る体験もできます



かやのもり
「栢森」の魅力を発信する食事処が
オーベルジュとして歩みはじめる

「奥明日香さらら」の名前は天武天皇の皇后であった持統天皇のご幼名 鸕野讃良皇女(うののさららのひめみこ)から付けられています。天武天皇亡きあと、持統天皇は飛鳥からこの栢森集落を通り吉野の宮滝まで、31回も通われたそうです

地域活性化の拠点として
食事処をオープン

豆乳と吉野葛で作る神奈備豆腐にきんぴらごぼう、大根餅。どの料理も素朴な味わいながら、収穫したばかりの旬の味覚がたっぷり、市販のお総菜とは、味も食感もまるで違います。こんな品がお盆いっぱい並ぶのが、奥明日香さらら名物の「さらら膳」。代表の坂本博子さんは「普通の田舎料理。朝採れ野菜も、この辺りでは当たり前ですよ」と笑います。が、手作りの味噌を使い、米も野菜も自家栽培で作られる料理は、今や大変なごちそう。どの品も滋味深く、噛むたびに素材のうま味が広がります。

店がある栢森は明日香村南東部にあり、稲淵・入谷の集落と合わせて「奥明日香」と呼ばれます。飛鳥川の源流に近く、山が迫る集落には、万葉の時代から変わらぬ、日本の原風景が広がっています。まだまだ訪れる観光客は少ないですが、映画監督の河瀬直美さんが2011年に発表した「朱花の月」の舞台となったことで広く知られるようになり、坂本さんの

泊まれば出会える
栢森の美しさ

「奥明日香さらら」ではこの春から、体験型農家民宿も始めました。集落で採れた旬の農作物を味わい、宿泊する。それは、今流行りの「オーベルジュ」そのものです。

「これまでも、栢森の風景に癒されたというお声をたくさんいただいています。でもこの集落は、夜や早朝が良いんです。街灯はまばらで、夜には星に手が届くよう。また早朝は霧がかかったりして、文字通り万葉の時代のままの光景です。この美しさを知っていたくには、やはり泊まっていただくが一番だと思います」



丁寧な下ごしらえで作られる「さらら膳」(2,000円)口に運ぶと優しい味わいが広がります

料理と栢森の風景を求めて、遠方からも熱心なファンが通います。坂本さんが「奥明日香さらら」を始めたのは、2008年のこと。その4年前から奥明日香の活性化を目指す女性グループ「さらら」の中心メンバーのひとりとして春・秋に集落にある各家庭の自慢料理を振舞うイベントなどを開催しており、活動の中で、空き家だった今の建物を拠点にしないかという話が出たそうです。

自身を「思い立ったら止められない性格」と話す坂本さんは、改修費用を工面し、集落の人にも協力を依頼して念願の店をオープンしました。坂本さんの取り組みはすぐに新聞や雑誌で紹介され、また2011年にはテレビでも大きく取り上げられ、評判はあっという間に広まりました。

今は娘の千恵さんを含め数人で店を運営していますが、ゆくゆくは千恵さんが中心となります。「娘には、好きにしたらいいと言っているんです。私が引退したら、店を辞めてもいい。でも、私が働けるうちに、娘が活躍できる場所は残しておきたい」オープンから10年以上が過ぎ、ますます発展を続ける「奥明日香さらら」。地域の魅力を発信するオーベルジュとしての今後の歩みに、注目です。



栢森の風景が
お待ちしております

奥明日香さらら

「ふるさとの食」をコンセプトに、旬の味覚たっぷりの郷土料理を提供。宿泊の予約は、電話やHPから受け付けています

代表 坂本 博子
本社 高市郡明日香村栢森137
TEL 0744-54-5005
設立 2008年
従業員数 3名
URL http://okuasukasara.kir.jp
営業日時 木・金・土・日曜日
11:30~16:30
休業時期 8月1日~8月31日、
12月21日~翌2月末日

2020.2.19 SG NARAが発足しました!

奈良県事業承継ネットワークでは
参画機関と連携し多くの支援を展開しています

あなたの会社は
大丈夫?!

事業承継はまだまだ先のこと!
今は元気だからいつでもできる!と思いませんか?



- ①後継者はいますか?育てていますか?
→すぐには見つからない・育たないものです
- ②資産の管理は出来ていますか?(個人・法人)
→株式・資金・不動産管理は大丈夫ですか
- ③会社のノウハウは整理されていますか?
→理念・顧客・商品・製造・販売は企業の根幹です
- ④将来への計画はありますか?
→事業拡大・新規事業参入等を見通せていますか

十分検討し後継者を決め計画を作成し円滑な事業承継を進めましょう!
計画的な事業承継が安定した企業成長に結びつきます!

- 事業承継診断で会社の将来の方向付けを支援します
- 経営の見える化・事業承継計画書等の作成をサポートします
- 特例税制対応の支援を行います(相続・贈与税の優遇措置等)
- 専門家(税理士、弁護士等)への「つなぎ」をします
- 事業承継補助金の申請や承継後の経営改善・磨き上げを支援します
- 後継者が不在の場合やM&Aを考えておられる方への支援も行います
- 承継を通しての企業の磨き上げや成長戦略もお手伝いします



奈良県事業承継ネットワーク
事務局メンバー

無料で様々な支援を
行っています!
お気軽にご相談ください!

お問い合わせ 奈良県事業承継ネットワーク事務局 (公財)奈良県地域産業振興センター TEL:0742-93-8815

メイクならティブや!
自分の物語をつくろう!
Narrativeとは物語

皆さま是非ご参加ください!

「SG NARA」とはSustainable Generation持続可能な世代交代を表し、世々代々を生きる歴史的存在に目覚めた人々が、良心の経営を目指し、地域創生、社会創生に取り組む輪を広げようと手を携えるプロジェクトです!後継経営者からアトツギ学生まで、リーダーのあり方に悩み、リーダーを志す皆さまの参加をお待ちしています!

2月19日ホテル日航奈良において「SG NARA」キックオフセミナーを開催しました。
発起人代表の株式会社アクラムの勝谷氏の基調講演があり、同じく発起人で奈良県で活躍している4名の若手経営者のトークイベントを行いました。
それぞれの経営者としての苦労ややり甲斐、事業承継の難しさなど、様々な体験談が語られ、207名の参加者は熱心に聞き入っていました。セミナー後の交流会にも35名が参加され、熱心に悩みや思いを話し合い充実した一時を過ごしました。
今後、「ツキイチSG」として発起人を囲んだ語りや各種イベントなどを開催する予定です。若手経営者の方々とネットワークを広げ、語り・学び・自己成長を目指しませんか!そして自らの物語を発信しましょう!!



奈良テレビ報道映像(下記URL) (対象18歳~50歳程度)
<https://www.youtube.com/watch?v=4Asf0TyThNE&feature=youtu.be>
今後の活動は(公財)奈良県地域産業振興センターHPやSG NARA Facebook(下記のQRコード)でご案内いたします



奈良で活躍する 5人の発起人による トークセッション



SG NARA 代表発起人
株式会社アクラム
代表取締役
勝谷仁彦氏
誰の話も聞こうとしなかつた私が今、みんなと心から話し合いたい!



合同会社ヴァレイ
代表社員
谷 英希氏
日本の縫製技術を生かした事業経営が評価されています!



梅乃宿酒造株式会社
代表取締役
吉田佳代氏
新製品開発や働き方改革に取り組みました!お客さまに新しいお酒を提案しました!



株式会社ミナシマ自動車
代表取締役
南島忠男氏
お客さまが求める自動車販売の姿を追求し理想を目指しました!



株式会社高木包装
代表取締役
高木美香氏
包装業界も進化し女性のアイデアも受け入れられています!

後継者の自己成長・経営革新のために
あなたの事業承継を応援します
ベンチャー型事業承継支援

地域の中小企業を支える新たな取り組みを開始 「中小企業応援士」の委嘱について

近年、経営者の高齢化、人口減少に伴う労働力人口の減少、国内市場の縮小などの著しい環境変化の中、地域の雇用や活力の観点からも、中小企業・小規模事業者の活躍、創業や有望なベンチャー企業の創出、貴重な経営資源を有する中小企業・小規模事業者の事業承継などは喫緊の課題となっています。

独立行政法人中小企業基盤整備機構（略称：中小機構）は、様々な課題を抱える中小企業・小規模事業者に対して、各地で活動されている経営者や地域支援機関の方々と応援する取り組みを始めました。

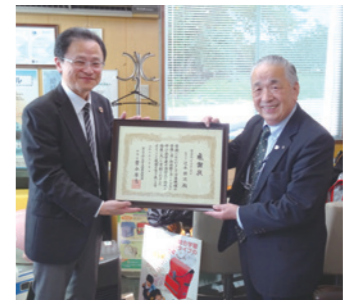
この度、中小企業・小規模事業者の活躍及び地域の発展に顕著な功労をされた各地の経営者の皆さまや地域支援機関の方々に對して、感謝状が贈呈されるとともに、令和元年10月25日付けで、全国の80人に「中小企業応援士」が委嘱されました。奈良県では次の3名の方々です。今後、中小機構や他の支援機関



公益財団法人奈良県地域産業振興センター
奈良県事業承継ネットワーク事務局
ブロックコーディネーター 水上和之 氏



梅乃宿酒造株式会社
代表取締役 吉田佳代 氏



株式会社タイワホーサン
取締役会長 辻本勝次 氏

※中小機構近畿本部 内山本部長から感謝状が贈呈されました

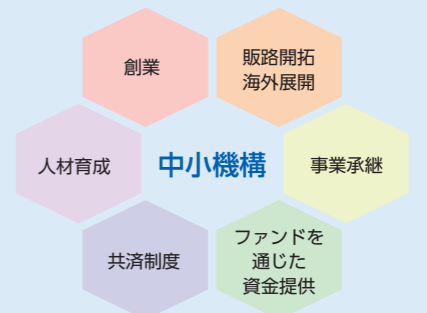
等と連携し、地域経済の発展と中小企業・小規模事業者の活躍を目指します。

水上和之氏からのメッセージ
思いもよらず功労表彰をいただき、更に中小企業応援士に委嘱され、大変光栄です。全国80人の中小企業応援士は、有力企業のオーナー、地元金融機関や支援機関のトップの方が多いため、一コーディネーターである私が選ばれたのは、微力ながら、中小機構の各部門と連携のもと、機構のあらゆる政策や支援策を県内企業に幅広く、継続して紹介してきた地道な活動を評価いただいたものと思います。今後ともそのこと忘れず、中小機構と更に強く連携して、中小企業の皆さまを応援し、地域の発展に結び付けて行きたいと思っております。

独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）

所在地：東京都港区・理事長：豊永 厚志

中小機構は、日本の中小企業政策の総合的かつ中核的な実施機関として、全国の中小企業への支援をトータルで行う経済産業省所管の独立行政法人です。承継や生産性向上など様々な課題を抱える中小企業に対して、創業、販路開拓、海外展開、人材育成、事業承継、その他経営面での助言、情報提供、並びに共済制度、ファンドを通じた資金提供など多様な支援を実施しています。



奈良県産業振興総合センター 「奈良いろいろりマルシェ」を毎月開催



来場者で賑わう会場

当センターでは、「奈良県とイオン株式会社との連携と協力に関する包括協定」に基づき、毎月イオンモール高の原店 平城コートにおいて、奈良のいろいろり良品販売会を開催してきました。本事業も3年目を迎える期間を3日間に短縮し、「奈良いろいろりマルシェ」として引き続き実施します。

お買い物に来店された皆さまに、魅力ある商品を販売している県内の事業者の商品開発・販路拡大を目的に開催しています。毎月テーマを変えて開催しており、参加していただいた事業者の方からは、「出店料無料で参加でき、多種多様なお客さまが来店するショッピングモール内で自社商品を周知できるので、本当にありがたい。」「お客さまの生の声を聞くことができるので、自社商品に対する客層やニーズ、商品の開発・改善等のヒントを得られた。」とのご意見をいただいています。

今後の募集予定		
開催期間	テーマ	募集時期
7/10(金)~7/12(日)	奈良の夏を感じられる商品	5月上旬頃
8/8(土)~8/10(月・祝)	夏休みワークショップ	
9/11(金)~9/13(日)	葉草を活用した商品	
10/16(金)~10/18(日)	奈良の秋を感じられる商品	8月上旬頃
11/13(金)~11/15(日)	寒い冬に備えよう	
12/11(金)~12/13(日)	奈良からの贈り物	

また、出展者同志の新しい交流が生まれ、普段接点がなかった異業種間の情報交換や協力関係を構築する機会の提供にも一役買っています。
年に4回程度に分けて出店事業者を募集しています。詳細については、奈良県産業振興総合センター 創業・経営支援部 経営支援課までお問い合わせください。 <http://www.pref.nara.jp/1751.htm>

お問い合わせ 奈良県産業振興総合センター 〈奈良県産業・雇用振興部〉 TEL:0742-33-0817

お問い合わせ 事業化推進課 〈(公財)奈良県地域産業振興センター〉 TEL:0742-36-8312

困ったときの…
「下請かけこみ寺」事業について

「下請かけこみ寺」は、下請取引の適正化を推進することを目的として国（経済産業省 中小企業庁）が全国48か所（各都道府県及び東京本部）に設置したもので、奈良県では「公益財団法人奈良県地域産業振興センター」が窓口になっています。（相談無料・秘密厳守・匿名可能）

相談窓口では、下請取引上の悩みを抱える県内企業の相談等に対して相談員が無料で対応いたします。

※下請取引のトラブル以外にも、企業活動において生じる取引上のトラブル等の法律相談も受け付けております。

相談対象となる方
企業間取引に関して、様々な悩みを持つ中小企業・小規模事業者

弁護士による無料相談

取引に関するご相談について、必要に応じて弁護士につなぎ、問題解決のためのアドバイスをします。

【相談事例】

- ・「原材料が高騰しているにも関わらず、単価引き上げに応じてくれない」
- ・「支払日が過ぎてても代金を払ってくれない」
- ・「客からキャンセルされたから、いらなくなったと言って返品された」
- ・「代金の値引き（減額）を要求された」
- ・「期日どおりに納品したのに倉庫が一杯だからと言って返品された」
- ・「仕事の受注の見返りに、取引先が取り扱う商品の購入を求められた」

調停手続き業務

中小企業の皆さまが抱える取引に係る紛争を迅速かつ簡便に解決するため、裁判外紛争解決手続き（ADR）を用いて、登録弁護士が相談者の身近なところで紛争解決のための調停を行います。

下請適正取引ガイドライン普及啓発

中小企業に対する「下請適正取引等の推進のためのガイドライン」の説明会を開催するなど、普及啓発を図ります。



（参考）今年度上半期相談実績（2019年4～9月）…

下請代金法以外のご相談が多いのが特徴となっています。なかでも、事業者自身の商品購入に係る契約トラブルが増加傾向となっています。トラブルが発生した時は、独りで悩むのではなく、なるべく早く専門家などに相談し、正しい知識を持ち、対処することが大切です。

下請代金法関係（内訳）	計24件
代金の支払遅延	(3件)
代金の減額	(2件)
その他	(19件)
建設業関係	5件
その他	52件
合計	81件

※累計延べ件数

お問い合わせ 下請かけこみ寺
下請取引適正化に関すること：0120-418-618（平日9:00～12:00 / 13:00～17:00※土日祝日、年末年始除く）
その他の法律相談：0742-36-8312（平日8:30～12:00 / 13:00～17:15※土日祝日、年末年始除く）

設備投資の公的サポート
設備貸与制度

お気軽にご相談ください。

設備貸与制度は、奈良県内で創業や経営の革新に取り組む小規模事業者等の設備投資を資金面で支援する制度で、必要な設備を当財団が購入し、長期かつ固定金利で貸与（割賦販売またはリース）するものです。設備導入・更新の際は、当制度をぜひご活用ください。

制度の概要

	割賦販売	リース
利用限度額	100万円以上 1億円以下（消費税込）	
償還期間	最長10年以内	3～10年
割賦損料率・リース料率	年利率 1.3% (固定)	3年 2.926% 7年 1.333% 4年 2.231% 8年 1.181% 5年 1.808% 9年 1.065% 6年 1.533% 10年 0.972%
返済方法	半年払	毎月均等払
保証金	契約時、設備価格の10%	不要
連帯保証人・不動産担保	原則として不要ですが、法人の場合は代表者を連帯保証人とします。また審査等により追加の連帯保証人もしくは担保が必要となる場合があります。	

活用事例

【リース】

貸与年度 平成30年度
事業者名 ミエノ化学
主な事業 印刷業
貸与設備 スクリーン印刷機
貸与規模 1,000万円～3,000万円



自転車用ボトルへの印刷例



スクリーン印刷機



化粧品容器への印刷例

社長の声

主に化粧品用の各種容器（ビン、ボトル）へのスクリーン印刷をやっていて、曲面への美しい印刷が得意分野です。設備貸与制度の利用は父の代から数えて7回目です。今回も制度を活用して受注増に対応することができました。今後、さらなる事業規模の拡張を目指しています。

設備貸与制度の「ここがポイント！」

- 金融機関の借入枠や信用保証協会の保証枠とは別枠で利用できる公的金融制度です。
 - 割賦販売で設備を導入すれば、当財団に所有権を留保したまま減価償却を行うことが可能です。
 - 商工会、商工会議所を経由してお申し込みになれば、償還期間を延ばすことも可能です。
- 詳しくはお問い合わせください。

お問い合わせ 金融課 〈(公財)奈良県地域産業振興センター〉 TEL：0742-36-8311



活力創造銀行
NANTO 南都銀行

<ナント>DC企業型プランのご案内

- 雇用の多様化、少子高齢化社会の到来、運用環境の変化と退職給付会計基準の変更など、退職金・企業年金を取り巻く環境の変化により、企業型確定拠出年金制度（企業型DC）を導入する企業が増加しています。
- 企業型DCを導入することで、各企業が抱えておられる問題解決に繋がり、また従業員の方々には、計画的な老後資金の準備を行っていただくことが可能となります。
- 南都銀行では、各企業のニーズに応じて、最適なプランの提案等を行い、退職金制度の改定に向けたお手伝いをさせていただきます。

私たちは、地元中小企業のみなさまと一緒に成長したい。

事業資金等のご相談は

ならしんへ

奈良信用金庫

本店：大和郡山市南郡山町529番地の6
TEL：0743-54-3111
URL：https://www.narashin.co.jp

地域のお客様を最優先とし、地元から愛される
地元密着型のスタイルを押し進めてまいります！

事業資金等のご相談は「やましん」へ

大和信用金庫

本店 奈良県桜井市桜井 281-11
TEL 0744-42-9001 (代表)
https://www.yamato-shinkin.co.jp/



地元中小企業のみなさまの
いちばんのサポーターでありたい

事業資金、各種助成金制度等のご相談は、ぜひ「ちゅうしん」へ

奈良中央信用金庫

〒636-0398 磯城郡田原本町132-10
TEL：0744-33-3311(代) FAX：0744-33-3801
URL：http://www.narachuo-shinkinbank.co.jp

2020年度

中小企業・小規模事業者の皆さまへ

総合相談窓口のご案内

- ✓ 平日昼間の相談は、事前申込なしで随時開催しています！
- ✓ 便利な**休日・夜間**の開催もございます！
※休日・夜間の相談会は、**事前申込制**とさせていただきます。
「休日・夜間相談申込書」をご提出ください。
- ✓ ご相談は、**無料**です！



奈良県内で、
✓ 創業をお考え中
✓ 新事業展開を相談したい
✓ 経営改善に取り組んでいる
など、経営に関する事なら
あらゆるご相談をお受けします。



開催場所	本店	奈良市法蓮町163-2
	高田支店	大和高田市幸町2-33 (奈良県産業会館内)
相談内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 創業に関する相談 (創業計画の作成方法) ・ 経営課題に関する相談 ・ 事業承継に関する相談 ・ 金融相談 ・ 金融機関紹介 <p style="text-align: right;">など</p>	

平日昼間の相談窓口は 8:30~16:30 となります。

※休日・夜間の相談に限り事前申込のない方につきましては、当日お越しになられても対応できませんので、予めご了承ください。

【お問合せ先】



企画部 企画情報課 ☎0742-33-0548
【ホームページ】 <http://www.nara-cgc.or.jp>



協会HPIはこちらから！
お知らせにて最新情報を
掲載しています。



奈良県信用保証協会
マスコットキャラクター
「ほしよまる」

ご相談は地域産業振興センターへ

公益財団法人 奈良県地域産業振興センター

〒630-8031 奈良県奈良市柏木町129-1
TEL 0742-36-8312 FAX 0742-36-4010
<https://www.nara-sangyoshinko.or.jp/>

交通・アクセスご案内

- 電車 近鉄橿原線「西ノ京駅」下車、東へ徒歩20分。
- バス 「近鉄奈良駅」より「恋の窪町行」乗車20分、
「柏木町南」バス停下車、西へ徒歩5分。
- 自動車 国道24号柏木町交差点を西折、1つ目の信号を右折。

